（定價金二錢）　明治二十五年六月九日　（郵便物認可）

時事新報

時事新報は全國中紙面の罫も廣き新聞紙なり　時事新報には每號詳細なる商況物價の報告あり

時事新報定價
時事新報は每號入面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價郵送料廣告料は左の如し
一枚二錢○一箇月前金五十錢○三箇月前金一圓五十錢○六箇月前金三圓○一箇年前金六圓○月末休刊
○時事新報社ヨリ直接ニ郵送スルモノハ右定價ノ外ニ一箇月十三錢の郵費料ヲ申受ク

時事新報廣告料（箱食）

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行　〃　付	十三錢	十一錢	十錢五厘

本社（寄稿ハ付
東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて愚より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐるみと寡からず偶り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て期類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報

海軍省

衆議院の多數は海軍省の要求即ち軍艦製造及び製鋼所設立の費目に對して不同意を表し悉く之を否決したり抑も製鋼所の設立は我國目下の事情に於て必要を感ずるのみならず我輩の所見を以てすれば十分成立の見込なきに非ざれども何を云ふにも草創の事業にして熟練經驗の點に於ては聊か掛念もある其上に當局者の主張する如く軍備獨立云々の一點張りを以て斯る大事業に着手するは輕忽の誹なきに非ざれば議會の衆論が遽に之を判斷せず更に調査を遂げ來期の議會に提出す可し云々との理由を附して之を否決したるは至當の決議として我輩の同意する所なれども軍艦製造費の否決に至りては前號の紙上にも述べたる如くにして何分にも感服せざる所なり蓋し當局者の要求にして從來の方針を一變し一時に數隻の船艦を製造するが如き計畫ならんには利害の關係する所甚だ大なるが故に其諾否は容易に決す可らずと雖も今度の要求は決して斯くの如きものに非ず唯その老朽を補充し現在の艦數噸數を維持するまでの目的にして即ち說明にも「帝國軍艦の內戰鬪の用に堪ふ可き現在のもの及製造中のものを合して二十八艦五萬九千四百五十八噸とす而して三十年度以前に於て老朽に入るもの三艦五千二百七十六噸なり軍艦を造るには製造決定の時より竣功を告るに至るには凡六個年を要す三十年度以前に老朽に入る軍艦に代ふ可きものを造らんとせば宜く二十五年度より着手す可し國庫幸に餘裕あり二百七十五萬圓を以て軍艦製造費に供するみとを得べし故に二十五年度より右の二艦を造るを要す云々」とあり誠に賭場きの道理にして何人も異議なかる可しと思ひきや議會の衆論が單に政府の不信用云々を理由として之を否決したりとは實に至極と云はざるを得ず若しも其議決の通りに行はれて日本の軍艦は年々老朽に入り次第に勢力を減ずる其最中に一旦不慮の事變を生じて其急に應ずるみと能はざるの不始末もあらば如何す可きや政府の信用の有無を云々して之を爭ふは國內の事として姑く咎めざるも之が爲めに護國の急務を忽にして國權の伸縮を問はざるに至りては我輩の決して與せざる所なり

夫れは夫れとして序ながら更に當局者の注意を望む所のものあり彼の民黨の輩が徒らに既往の失策を云々し寧ろ漠然たる感情を以て反對する如きは固より取らざる所なれども凡そ海軍の事業は國費を費すみと最も大なるものにして其費用は詰り一般納稅者の負擔に外ならざれば國會開設の今日に於ては殊に萬事に注意して一般の公衆及び納稅者に對して愛嬌を盡すみとも亦大切なる可きに實際に於ては其邊の注意を欠ぐものあるに似たり過般九州の沿海に於て施行したる海軍の大演習の如き我輩の兼てより其必要を認めたるものにして其實行を見たるは竊に喜ぶ所なれども一般の人民は唯海軍省が會計年度の替り目に際し少なからざる金額を費して大演習を施行したるを傳聞せしのみにて實際の景況及び其結果に就ては毫も聞知する所なし元來實地演習の必要なる次第は出師準備、洋上の戰鬪、要港攻防の方略の如き平時の計畫と實際の場合とは案外の差あるものにして上出來のみともあれば不出來のみとも多かる可し例へば出師準備に於ては開戰公布の曉に何港の石炭庫に欠乏を告げたるよう速に某商社に就て之を求め、又某處より廻送したる水雷艇は途中にて手間取り期限內に着するを得ず、或は着したるも故障を生じて實用に適せざりし等、又洋上の戰鬪に於ては何艦は僅々何時間の全速力の爲め汽罐に損所を生じて廢艦と爲り、或は信號の法不充分にして諸艦の運動指揮の如くなる能はざりし等、又要港の攻防に於ては沈沒水雷は久しく倉庫內に在りしが故に其用を爲さず或は魚形水雷は發射の度ごとに其頭部鈍却して實用に適せざりし等凡そ此種の出來事は枚擧に遑あらざる可し即ち是れ實地演習の効能なり聞く所に據れば歐洲諸國の演習も新聞紙などの評判には通例上出來七分、不出來三分ぐらゐの處にして當局者も之を認ひれども實際に觀察すれば不出來の方多しと云へば我演習とても十が十まで上出來とは往かざる可し而して彼國にては演習施行の折には殆んど每艦に新聞通信者を乘組ませて其景況を一般に知らしむるを勉むるは無論、指揮官又は艦長の人々は海軍の事に熱心なる國會議員一兩名を賓客として乘艦せしめ實地の模樣を目擊せしむる等一般の公衆納稅者に對して親切を盡すの注意一方ならざるよしなれども我海軍に於ては此邊の事に就て頗る注意を欠ぐもの〳〵如し誠に小事なれども畢竟不人望を招くの基を爲すものなれば序ながら一言して今後の注意を促すものなり

官報

○司法省告示第四十號
熊本地方裁判所管內八代區裁判所陣內出張所本年六月一日火災ニ罹リ熊本縣肥後國葦北郡津奈木村水俣村久木野村地所建物船舶書公證割印簿悉皆燃失シタルヲ以テ該各村地所建物船舶ニ付賣買讓與質入書入ノ公證ヲ受ケタルモノハ本年七月九日限リ陣內出張所ニ登記ヲ願出ツ可シ
但本文期限中ハ燒失セシニ依リ更ニ登記ヲ爲ス可キモノ、外該各村地所建物船舶ノ登記ヲ停止ス
明治二十五年六月八日
司法大臣子爵田中不二麿呂

雜報

○米國大統領の候補者　北米合衆國大統領の改撰は來る十一月に行ふ筈なればレパブリカン、デモクラットの二大政黨は例の如く豫めたの〳〵自黨の候補者を撰定せんが爲め候補者指名會を催はす都合にてレパブリカン黨はデモクラット黨に先ち一昨七日ミンチソタ州のミンチアポリス府に指名會を開きたる筈なり同會には黨中の名士中何人か衆望を得て大統領の候補者に撰定せらるべきか現大統領ハリソン將軍か現國務卿ブレーン氏か將たアルガー將軍か未だ豫知し難しと雖ども最近の米國新聞を閱するに其撰に當るべきものは恐らくは三氏の內おちん現大統領ハリソン將軍は溫良なる政治家にして其技倆拔群の評を下すに足らざるも在職四年の間別に過失の點もなく一國の大統領として適當の人物なれば再び將軍を候補者に撰びデモクラット黨と中原の鹿を爭ふみを得策なるべしとて兼てより望を屬する黨員多し次に國務卿ブレーン氏は米國第一流の大政治家と稱せらるゝ丈けありて其才識の卓絕なるは素より言を待たず大統領として申分なき人物なれども惜むらくは一方には氏に反對を試むる者ありて常に意の如くならず前回の候補者指名會にも望を屬する者多かりしも氏は病と稱して一切之を辭退し飄然歐洲に遊びて他人に讓りたるも今回の指名會には是非とも氏を推撰せんとて奔走する者あれ共氏は其撰に當るを希望するや否や全く判然せず客月十九日華盛頓府にてはブレーン氏がミンチアポリス府の指名會に於て滿場一致を以て推撰せらるれば候補者たるべき事を能に承諾したりとの風說傳播したれども能く之を詮議すれば決して事實にあらず併しみの風說には多少の根據なきにあらず即ち氏の政友なる米國上院議員三名は氏の眞意を確めん爲め各々時刻を異にして氏を訪問し質問を啟けて其意志を探るべしと約し約束の如く訪問を試みしに氏は三人に對して甲乙丙の答をなして云へらく余は大統領となるを希望せず速に公務を退かんと欲す大統領の任は煩を重くして余は其煩に堪へざるべし余は唯現職を去るの時期來るを待つのみと然るに氏は大多數を以て推撰せらるゝも頑然之を辭退するや否やを明言せざれば其眞意のある所を知るに由なしレパブリカン黨の全國委員長クラークソン氏は五月十八日同黨の名士數名と共にデトロイト府なるアルガー將軍の邸に會して密議を凝らし其結果は極めて秘密に附すれ共一說にクラークソン氏は華盛頓府に赴きてブレーン氏に說き指名會の席上、候補者として其名を出す事を承諾せしむる筈にて若し拿々氏が之を拒まばアルガー將軍を推すならんと云へりクラークソン氏は五月二十日紐育府に赴き或る人に謀りて曰く指名會にては投票を要せず滿場の大賛成を以て當撰する者あるべしと此人は、ブレーン氏かアルガー將軍か知り難し兎に角指名會開會の十數日前の模樣にては當撰者はハリソン將軍かブレーン氏か將たアルガー將軍ならん然りと雖ども政黨は猶ほ驟雨の如し開會の間たるや知る可らず而して愛國黨は二週間の會を開く筈なれども其候補者は大統領クレブランド氏なんと云ひ未だ何れとも決せず

○米國の政治社會は稍や

○山縣伯　同伯は昨日より宜によりては西京まで遊び

○英國汽車中の醜行頻繁中、一人旅の婦女子が車中にて流行するよし今其一

○歐發の報に據れば同日客車內にて ハナー コルしたる爲めレットフォルド日ウイルケシャー府リッ氏と同じ車房に乘込たるに氏と云へる女子はベル氏に彼より話掛くる言葉に解ベル氏は無禮にも猥がを禁じて之を拒絕したれども受けしかば列車のグレーや房內より飛出で番人に て兩親へ右の次第を告げは現に妻子もあり是まで る人物なれども右の所せずブリチン孃が去りたヘリー孃に向つて談話を拘はらず再び腕力に訴へ孃に向ひ斯る事は他に知に話るべからず若し之を しと告げたれども孃は之車場に着して右の始末を氏は直に縛に就きたりと

○無記名公債證書の質權當に取りて貸付を爲しなには眞正なる持主に之を は銀行者の痛く憂慮する東京銀行集會所へも之が集會所にては來る十三日議すべく第百十九銀行は律家に於ても目下之を べき京濱同盟銀行の總會しと云ふ而して此問題 る所にては銀行の爲めに法文にては如何ともする 退付せざるを得ざるべし

○綴切符の發賣　日本銀行者間に法典斷行 集會所にては來る十三日議すべく第百十九銀行は律家に於ても目下之を べき京濱同盟銀行の總會しと云ふ而して此問題 る所にては銀行の爲めに法文にては如何ともする 退付せざるを得ざるべし

○綴切符の發賣　日本銀行者間に法典斷行 各驛の切符を偏付けざる方なく爲めに中途にて くは乘越して始めて目的 て賃錢を拂ふなど隨分面 社にては各驛共綴切符を と即時に何驛より何驛 なりと云ふ